

技術・家庭科（家庭分野）の主張

1 教科で育みたい人間像

- 5 技術・家庭科（家庭分野）では「生涯にわたってよりよい生活を営む人」を育みたいと考えている。「よりよい生活を営む人」とは、単に現在の生活に比べてよりよい生活を空想するだけの人ではない。例えば、積極的に昔から伝わる生活の知恵を活用したり、世の中にあふれている生活に関する情報を集めたりして、現状に合わせてそれらを生活に取り入れている人。つまり、生活する主体者として、現在の生活と照らし合わせながらよりよい生活を追い求めて実践する人であると考えている。
- 10 私たちにとって、食べる、着る、住む、買うなどの行動は習慣であり、生活を形成しているものであると言える。私たちは、習慣となっていることを意識せずに行うこともあるが、社会情勢、自分を取り巻く生活環境や置かれた立場が変化したり、生活経験を積んだりすると、これまで何気なく行っていたことに目を向けるようになる。そして、「もっとこうしたい」「もう少しよりよくできそうだ」「改善する必要がある」など、生活に対する思いや課題意識が生まれたり価値観が変わったりすることがあるだろう。つまり、生活は
- 15 常に更新され続けるものであり、よりよい生活を追い求めて実践することに終わりはないと言える。変化の激しい社会の中でも、生涯にわたってよりよい生活を営む人であってほしいと願っている。

2 教科ならではの文化

- 20 技術・家庭科（家庭分野）で扱う内容は、生活そのものだと言える。しかし、人によって家庭環境はもちろん、生活経験も生活の中で優先していることや求めているものも異なるため、一言で「生活」と言っても人によってその形は様々である。自分にとって当たり前のことが他者にとっても当たり前であるとは限らない。また、生活はあまりにも身近に当たり前のものとして存在しているため、現状でもそれほど不自由に感じたり、課題だと思ったりすることなく過ごしていることもあるだろう。
- 25 日々何気なく行っていることであっても、改めて見直すと思いや課題意識をもつことがある。他者の考えや生活のようすを知ることで、新たな価値観にふれたり新たな視点を得たりして、自分も試してみようと思うこともある。社会状況や立場の変化に伴い、健康的な生活、環境に配慮した生活、人とのつながりを大切にしたい生活や自分の手で作ることを楽しむ生活など、追い求めるものを自分の意思で変えることもあるだろう。このように、私たちは現在の生活に目を向けるからこそ、よりよい生活を追い求めるようになるので
- 30 はないか。以上のことから、技術・家庭科（家庭分野）ならではの文化を「**当たり前を見直す営み**」と考えた。

3 願う子どもの学び

- 技術・家庭科（家庭分野）で願う子どもの学びは、「現在の生活と照らし合わせながらよりよい生活を求
- 35 **めて意思決定すること**」である。意思決定とは、習慣となっていることを自分事として、現在や未来の自分の心構えや行動について考えることであるととらえている。生活の中の一場面に置かれた自分を想像して意思決定することは、実践すること、そしてよりよい生活を営むことにつながると考えている。

- 子どもたちが意思決定するまでの過程では、まず生活を見直すことを大切にしている。子どもたちにとって当たり前のことであっても、改めて見直すことで気づきや疑問をもつようになる。そして、それらを共有
- 40 することで、自分が知らなかった価値観や方策を知ってハッとしたり、詳しく知りたくなったりすると考える。また、健康面や安全面、社会や未来に与える影響、人のかかわりなどの視点、幼児や高齢者などの立場からよりよい生活を追求することで、生活に対する視野を広げ、自分の生活で大切にしたいことが見えてくるだろう。さらには、実践的・体験的な活動を通して解決策を検証し、効果を実感したり、想定していなかった問題点に直面したりすると同時に、「前よりは少しよくなった」「他にも自分ができることはありそう
- 45 **だ**という思いをもつだろう。このような過程を繰り返すことで、さらに生活に対する思いや課題意識をもち、また新たな課題を解決しようとしていく姿につながっていくと考える。

私たちの生活は、多くの人やものが関わり合って成り立っているため、子どもたちがそれぞれのつながりを意識して考える姿もあるだろう。複数の題材の配列も考えながら授業づくりをしていきたい。